



〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



聖書を読む会

リモート (Zoom) で行っています。
第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)
第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)
ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

あなたがたは地の塩である

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 (4月9日まで事前予約制)

臨時チャペル (4月2日まで) 旧館チャペル (4月9日から)

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

巻頭メッセージ

あなたがたは地の塩である

司祭 シモン・ペテロ 上田憲明

この有名な言葉の次に来る「だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によつて塩味が付けられよう。もはや何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」(マタイによる福音書五・一三)という言葉が以前からどうも納得できないでいたのだが、最近ひよつとしたらこうではないかと思ひ始めたら、そういう風にしか見えなくなつてきているので、ご紹介したい。

そもそも、塩に塩気がなくなるこゝとがあるのだろうか？ ある聖書の注解者は、不純物が多い岩塩の中には、塩気がなくなるものがあるという極々希少な例を出して、塩気がなくなつた岩塩は岩と変わらないから捨てられることがあつたのだろう、と推測している。しかし、イエスさまは、わざわざ、そんな奇跡的に塩気がなくなる塩の例を出して、お話ししているのだろうか？ と、ひつつかつていたのである。そして、この節の前を見ると、有名な「心の貧しい者は幸いである」という一般常識を全く別の角度から見ようとするイエスさまのお話が記されている。そこに登場する「幸いである」とされている人たちは、むしろ今幸いとは一見思えないような人たちである。そう思つて改めて見たら、その人たちは、むしろ

「何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられる」かのように扱われてしまうような人たちである。だから、ここは、むしろ「塩に塩気がなくなる」ことはほとんどないことを前提にしてお話ししておられると読んだ方が自然なのではないか。そしてそういう「踏みつけにされ」、「何の役にも立たない」とされている人たちを、「あなたがたは地の塩である」と言つておられるのだと思ふようになつてきた。イエスさまは、「地の塩にならなさい」とは言つておられない。人々は、あなたの良さがわからないかもしれない。「役立たず」とか、「投げ捨てられて当たり前」とか言ふかもしれない。しかし、神さまは知つておられる。「あなたがたは地の塩である」と。だからイエスさまもそうおつしやつているのだ。むしろ周りの人も、自分自身でさえ気が付かずにあなたの中の塩が人々の間に溶け出して、人々の関係に味をつけ、腐るのを防いでくれているのだろう。元々、神さまは、わたしたち人を造る時に、「塩」を入れてくれていたというお話なのではないだろうか。

(余分な知識…約六十kgの人で二百〜三百gの塩分があるそうです。)